



～いにしえから未来へ～

“北のまほろば” 青森から発信する雪国の新時代

## 開催報告

「ゆきみらい 2010 in 青森実行委員会」

### 1. はじめに

「ゆきみらい 2010 in 青森」は、平成 22 年 2 月 18 日～19 日の 2 日間、青森県青森市で開催されました。

「ゆきみらい」は、雪国の現状や未来について、一般市民や研究者、行政担当者等が意見や情報の交換を行い、相互に交流や連携を促進するとともに、雪のない地域に向けて情報を発信していくことを目的に、北海道、北陸、東北で リレー開催しております。

近年の雪対策の背景として、少子高齢化など社会情勢の変化への対応や、地球温暖化の防止など環境対策に果たす雪国の役割があります。また、都市化や近代化の中で失われつつある雪国の生活技術や文化を新たな地域資源として掘り起こし、次の世代に伝承していくことも重要です。

今回のゆきみらいでは、いにしえから受け継がれてきた暮らしと文化、社会情勢の変化に伴う雪国の現状と課題、東北新幹線の全線開通などで生まれる新たな交流、いにしえ・現代・未来をつないで、これからあるべき雪国の姿を考え、雪対策における「市民協働」の取組、「環境問題」への対応、「歴史・文化」の継承をキーワードに、東北の最北端、青森県から「ゆきのみらい」を世界へ呼びかけるという主旨のもと「いにしえから未来へ～“北のまほろば” 青森から発信する雪国の新時代」をテーマに、

平成 22 年 12 月に東北新幹線新青森駅開業を控えた青森市で 2 日間開催し、延べ約 8,000 人の参加をいただきました。



ゆきみらい 2010 in 青森 オープニングセレモニー



タイトルロゴのコンセプト

いにしえ・現代・未来をつないで進む「疾走感」をイメージさせるロゴデザイン。

2010年、東北新幹線全線開通により新たな交流や発展が期待される機運であることも考慮し、「青森」を未来へと運ぶ新幹線のフォルムをモチーフとしました。また、カラーリングには、新幹線の新型車両をイメージさせる緑、青森の名産品であるリンゴの赤、青空や冬からの目覚めを思わせる青を配色し「青森らしさ」を表現しました。

## 2. ゆきみらいシンポジウム

2月18日(木)に開催された「ゆきみらいシンポジウム」では青山俊行国土交通省東北地方整備局長(実行委員長)の主催者挨拶、三村申吾青森県知事、鹿内博青森市長による主催地歓迎挨拶、甲村謙友国土交通省技監による来賓挨拶の後、青森公立大学地域研究センター長 香取薫氏より、「雪とともに暮らす地域の魅力」と題して、基調講演をしていただきました。

基調講演では、雪を媒体に地域の活性化を図る取り組みや青森県弘前市における除排雪の情報化の取り組みについてのお話をいただきました。



甲村謙友国土交通省技監による来賓挨拶



ゆきみらいシンポジウム開催状況



基調講演:香取 薫 氏

基調講演に続いて行われたパネルディスカッションでは、コーディネータに(社)青森県観光連盟 専務理事 九戸真樹氏、パネリストに青森大学雪国環境研究所 所長 関幸子氏、津軽地吹雪会 代表 角田周氏、NPO法人北国のくらし研究会 理事 高樋忍氏、NPO法人青い森空間創造女性会議 副理事長 柁沢孝子氏、元青森県企画振興部市町村振興課長 重徳和彦氏、国土交通省都市・地域整備局 地方振興課長 坂本努氏をお迎えし、「雪国の人とくらし・環境・文化・交流」をテーマに雪の冷熱エネルギーを利用したエコ住宅、雪むろを利用した果樹や野菜の品質向上の紹介、雪国青森の観光の取り組み、雪国における市民活動の取り組み、諸外国の雪を活かした観光の取組事例、地域の交流における雪処理担い手の確保の必要性などの報告や雪国の人々が今後、快適で安全に暮らして行くために必要となる課題や魅力ある地域発展を行う為の提案などについて議論がなされました。(参加者622名)



コーディネーター:九戸 真樹 氏



パネラー: 関 幸子 氏



パネラー: 角田 周 氏



パネラー: 高樋 忍 氏



パネラー: 柁沢 孝子 氏



パネラー：重徳 和彦氏

パネラー：坂本 努氏

### 3. ゆきみらい研究発表会

2月19日(金)に開催されたゆきみらい研究発表会では、全国の雪に関する調査研究を行う技術者やNPOなど、様々な立場の方から73編と多くの応募を頂きました。その中から口頭発表論文として57題の発表を行っていただきました。

我が国の豪雪地帯は、面積で国土の51%、総人口16%を擁し、独自の文化・風土が根付いているとともに、冬期間においては、雪国ならではの景観が演出されるなど、雪国における豊かな生活を営むための雪文化の継承が成されてきたところです。

しかし、近年の社会情勢の変化により、豪雪地帯においては、少子高齢化の進行が全国平均に比べて著しいこと、さらに、過疎化の進行に伴う地域コミュニケーションの崩壊が懸念されるなど、冬期間の移動障害や地域による雪処理能力の低下、環境問題などの問題が生じております。

このような状況の中、平成17年豪雪に引き続き起こった平成18年豪雪では、全国で152の方が亡くなり、地域生活や地域経済などに大きな影響を及ぼしたところです。昭和59年年以来20年ぶりの豪雪であり、小雪に慣れてきた豪雪地帯に居住される人々に改めて豪雪の恐ろしさや影響について考える機会となったと思われます。

このことから、平成18年豪雪を教訓とし、雪国の文化や暮らしを見つめ直し、雪国における全ての人達が安全・安心で快適な生活を実現するために、更なる雪氷技術の開発・普及が重要であり、次の世代を担う子供達へ継承していくことが重要です。

ゆきみらい研究発表会は、調査研究を行う技術者

と住民やNPOといった様々な人々を結びつけ、雪に関する様々な情報を紹介・発信していく場とするものであり、以下の3つのセッションを柱に開催しました。(参加者約600人)

- ①雪と市民協働
- ②雪国における環境技術
- ③雪国の克雪技術の継承と快適な生活の実現

○セッションごとの応募状況

- ◇「雪と市民協働」 【15編】
- ◇「雪国の環境技術」 【11編】
- ◇「雪国の克雪技術の継承と快適な生活の実現」 【47編】

○応募者内訳による応募状況

- ◇道路管理者(国・自治体・NEXCO) 【40編】
- ◇民間・団体・地域・NPO 【10編】
- ◇研究機関・大学・高校 【23編】



発表状況



聴講状況





質疑応答



講評

#### 4. ゆきみらい見本市

2月18日(木)・19日(金)に行われたゆきみらい見本市では、快適な冬の生活環境づくりのために必要な克雪・利雪技術などについて企業・団体・行政のブース展示により紹介したほか、雪国の自然・生活文化など雪国の魅力を紹介しました。

会場は、青森市文化会館と合浦公園に分かれ、35の団体・企業・行政の展示を行うとともに、ミニねぶたの展示のほか、三内丸山遺跡の展示コーナー、組紐体験コーナーを設け青森の歴史・文化の紹介を行いました。

また、青森市文化会館1階ロビーの特設ステージでは、後藤竹春氏による津軽三味線ライブ、青森県立五所川原農林高等学校経論の工藤貴正氏によるサイエンスマジックショー、津軽弁研究・川柳作家の渋谷伯龍氏による津軽弁講座、青森県教育長文化財保護課長の岡田康博氏による縄文講座などを行いました。(参加者 青森市文化会館約4,000人、合浦公園約1,300人)



青森市文化会館1階(主催者・行政ブース)



青森市文化会館2階(企業・団体ブース)



青森市文化会館2階(企業・団体ブース)



合浦公園(企業・団体ブース)



津軽三味線ライブ



サンエンスマジックショー



合浦公園会場



津軽弁講座



除雪機械展示状況



縄文講座



除雪機械実演状況

## 5. 除雪機械展示・実演会

除雪機械展示・実演会は、2月18日(木)・19日(金)の二日間、合浦公園で行いました。

除雪機械の最先端の技術を披露し、機械の技術革新や、除雪事業の仕組みを理解していただくとともに、小形除雪機械の展示など、身近な除雪機械の展示を行いました。

出展は8企業と東北地方整備局東北技術事務所(参考出展)から21台の出展機械がありました。(参加者 1,460 人)

## 6. 関連イベント

ゆきみらいの関連イベントとして、2月18日(木)・19日(金)両日にわたり、ツアーバスの運行と小型除雪機講習会を行いました。

市内ツアーバスは、三内丸山遺跡、新青森駅周辺整備現場見学等からなる北のまほろば、雪国の未来コースと、棟方志功記念館、メモリアルシップ八甲田丸などを中心とするノスタルジー青森コースとし、青森市の魅力をお気軽に体験できる無料ツアーバスの運行を行いました。(参加者 90 名)。



市内ツアーバス運行

また、小型除雪機講習会は、一般の方を対象とした初心者向けの講習会とし、講義と実演により除雪機のプロが安全な除雪作業の方法を伝授しました。(参加者28名)



小型除雪機講習会(講義状況)



小型除雪機講習会(実技講習状況)

## 7. 同時開催イベント

ゆきみらい 2010in 青森の同時開催イベントとして、第5回歩いて楽しむ「小春通り祭」とオプションツアー「旬 冬のあおもり」バスツアーが行われました。

第5回歩いて楽しむ「小春通り祭」は、国道4・7号沿道企業やNPO法人北国の暮らし研究会が主体となり、国土交通省、青森県、青森市協力のもと、整備された融雪歩道を実際に歩いて体験することで、

融雪歩道や雪みちへの関心を深め、雪のある暮らしについて考える機会とするために行われました。

2月18日は17:30から前夜祭として国道4・7号融雪歩道を歩く小春通り祭提灯行列などが行われました。2月19日は、9:00から青森市文化会館大ホールにて雪みちづかい報告会が行われ、同日10:00から2月20日にかけては、日本原燃サイクル情報センター、国道4・7号融雪歩道沿道などで抹茶サービス、国道4号・7号沿道企業企画や融雪歩道のしくみ紹介などが、行われました。



小春通り祭り前夜祭「提灯行列」



雪みちづかい報告会

## 8. おわりに

今回のゆきみらいでは、地域に身近な「ゆきみらい」として、市民生活に身近な除雪機械の展示を行うとともに、小型除雪機械講習会や、地域主催のイベントなどと同時開催を行いました。

開催期間中は、全国から多数の皆様にご来場頂きましたことに心よりお礼申し上げます。

また、開催に際し、多大なるご尽力を賜りました青森県、青森市をはじめ関係各位に重ねてお礼申し上げますとともに、次期開催地である札幌市での成功を祈念し、本ゆきみらいの概要報告とさせていただきます。